

平成26年度学校給食地場産食材使用状況調査の結果

○ 調査方法等

(1) 調査対象

県内公立小中学校の全ての学校給食施設 207施設

(2) 地場産食材使用率算出方法（食品数ベース）

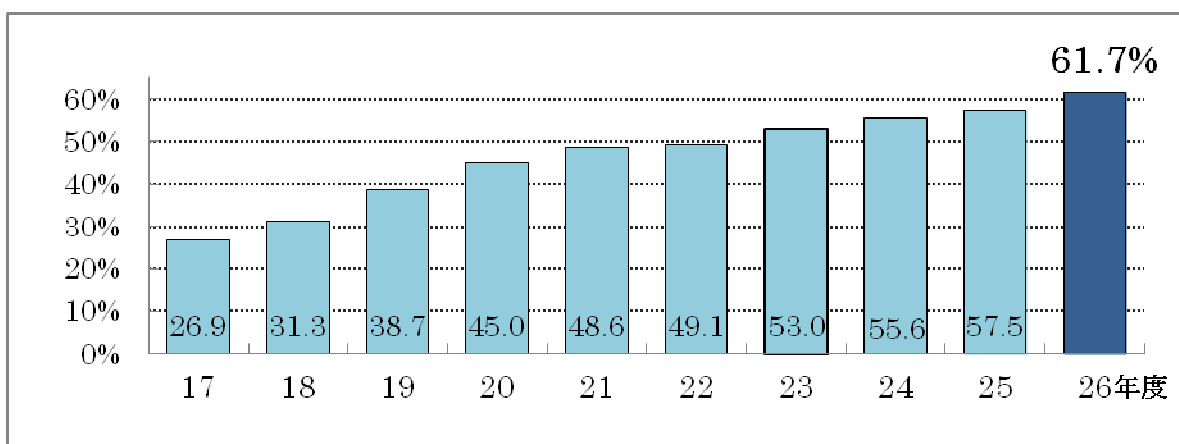
使用率（%）＝（山口県産食品数 ÷ 全使用食品数）× 100

(3) 調査期間

各学期において県教委が任意に指定した5日間（計15日間）

○ 調査結果の概要

(1) 地場産食材使用率 61.7%（対前年度比 4.2ポイント増）



(2) 食品分類別の使用率

	使用率 [前年度比 (ポイント)]		使用率 [前年度比 (ポイント)]
牛乳・乳製品	95% [+2]	その他野菜類	63% [+6]
穀類	84% [+1]	魚介類	61% [+6]
豆類	67% [-2]	緑黄色野菜類	56% [+8]
果実類	67% [+0]	きのこ類	46% [+4]
獣鳥肉類	66% [+0]	いも及びでんぷん類	31% [+2]

(3) 各市町における県産品の使用率

使用率	市町数	市町名
70%以上	7	宇部市、長門市、美祢市、山陽小野田市 田布施町、平生町、阿武町
70～50%	12	下関市、山口市、萩市、下松市、光市、 柳井市、周南市、防府市、岩国市 上関町、周防大島町、和木町

(4) 市町の主な取組事例

市町名	取組事例等
平生町	○地元食材の直売所との連携により農産物の収穫時期等の情報を共有し、その時期毎に使用できる食材を積極的に献立に取り入れる工夫をしている。 また、使用頻度が高いにんじんなどの計画栽培を地元農家に依頼することで使用率が上昇した。
周防大島町	○以前からJA等関係機関と連携し、学校給食に地場産食材が納入される協力体制が整備され、近年、使用できる地場産食材が少しずつ増えている。 また地域によっては、使用頻度が高いにんじんなどの計画栽培を地元農家に依頼することで使用率が上昇した。